



TSL「飛翔(ひしょう)」Ship of the Year '95受賞



総トン数1,427トン、最大速力54.25ノット、最大貨物搭載量200トン、世界最大の空気圧力式複合支持船型TSL(テクノスーパーライナー)「飛翔」が'95年度日本造船学会シップ・オブ・ザ・イヤーを受賞した。

TSL研究開発は、TSL研究組合において平成元年から開始され、平成6年度には「飛翔」を完成した。その後、6ヶ月に及ぶ交海城試験を経てTSLの設計・建造技術が確立された。

平成7年7月から同年11月まで行われた総合実験では、長距離夜間航行を含む66航海を50ノット近い高速で疾走し、延べ航海距離は約17,000海里(地球の3/4周)に及んだ。4ヶ月間に亘る運航実験では、台風シーズンにも遭遇したが燃事完遂し様々な基礎データが取得されるとともに十分な安全性と良好な耐航性・定時制が確保できることが実証された。また、貨物輸送実験では、20フィートコンテナ延べ107個の輸送を行い、荷崩れ、荷傷み、品質劣化もなく、良好な状態で貨物の高速海上輸送が可能であることを実証できた。さらに今回の実験では、各地に寄港した際に一般公開を行い、20万人以上の見学者を集め、社会的に大きな関心を呼んだ。

実用化にあたっては現在、運輸省内にTSL事業化支援調査委員会が設置され、今後の事業の在り方について検討が進められている。

取材協力・写真：三井造船㈱、三菱重工業㈱